

# 令和4年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 実践事例集



学校名：金沢市立高尾台中学校（学校番号219）

実践推進事業名：プログラミング教育推進校

## 1 研究テーマ

生徒が主体的・協働的に学ぶための授業改善  
～プログラミング的思考の育成を目指して～

## 2 研究の重点

- ① ICT を効果的に活用し、生徒が主体的・協働的に学ぶ場を設定する。  
主体的に学ぶための「ワクワクする」課題設定。また、その解決に向けて協働的な場面を設け全員参加型の授業を目指す。
- ② プログラミング的思考の育成  
教育課程全体を見渡しながらか、教科の枠を越えてあらゆる場面でプログラミング教育を実施する。「こんなことができたらいいな」というゴールイメージに向けて、フローチャート等を活用し、トライ&エラーを繰り返しながら自分で最適な方法を発見する力を育む。

## 3 実践した内容

4月 研究部会開催「今年度の研究の進め方について」

5月 校内研修会①実施

講師：金沢市教育委員会学校指導課主任指導主事 室暁士 氏  
演題：「プログラミング的思考」の育成に向けて



6月 音楽科 中橋教諭による提案授業

英語科・国語科において板書モデルの作成

校内研修会②実施



7月 各教科において「プログラミング的思考」を取り入れた授業実践

8月 校内研修会③実施「各教科による実践報告会Ⅰ」

オンライン研修への参加（研究部）

教科で1本指導案の作成と後期に向けての授業検討

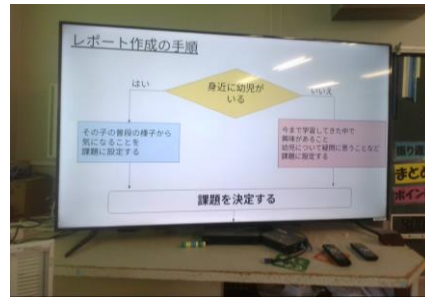
## 9月 全校生徒向けプレゼン実施



## 9月～1月 各教科において授業実践

12月 河原教諭・増本教諭 京都教育大学附属桃山中学校視察  
校内研修会④実施「県外研修報告会」

2月 「プログラミング的思考」を取り入れた授業実践会  
校内研修会⑤実施「各教科での実践報告会Ⅱ」



## 3月 研究のまとめと来年度へ向けて

\* 上記に加え、定期的に研究部会と教科部会を実施し、情報交換を行った。

## 4 成果と課題

### 重点①について

本校では「全員参加型授業」を目指し、ICTの積極的な活用や、協働的な場面の設定等の工夫を行ってきた。また、どの生徒も「やってみたい」と考えがいがあったり、「なぜだろう」と疑問を持てたりする「ワクワクする課題」の設定を工夫することで、意欲を高める工夫も行っている。

生徒アンケートの結果からは、「一人一台端末を活用した授業が好きだ」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は前期86%、後期82%と、生徒はICT活用を好意的に捉えていることがわかった。一方で教員の「一人一台端末を積極的に活用した授業を行っている」という質問に対しては、「行っている」の割合は前期78%、後期67%と、まだ改善の余地があることがわかった。また、課題に関しては前述のように工夫しているが、全員の生徒へ浸透させる手立てが今後必要である。(生徒アンケート：「授業では課題がはっきりしていて、どんなことを勉強するのが分かる」前期95%、後期93%)

## 重点②について

今年度は研究初年度ということもあり、まず「プログラミング的思考とは何か」「授業でどのように取り入れるか」と手探りの状態から研究をスタートした。そのため、重点②に関して、十分な検証をすることができなかった。これは来年度取り組むべき課題である。フローチャートについても初めての試みのため、教科部会での情報交換や、教科の枠を越えての実践報告会を行った。来年度に向け、今年度と同様「なぜ今プログラミング教育なのか」「なんのためにフローチャートを用いるのか」など、ねらいを明確にした上で、それを生徒と共有しながら進めていく必要がある。

## 5 来年度に向けて

- ・生徒とねらいを共有する。
- ・教員の意識を統一するために校内研修会を実施する。
- ・検証方法の検討。アンケートをどうするか。
- ・生徒の変容の見取りをどのように行うか。